

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 中央総合福祉会
施設名	都賀保育園
報告者（役職）	佐藤 圭子 （園長）
住所・連絡先	〒264-0025 千葉県千葉市若葉区都賀 5-1-11
	電話 043-231-1600 e-mail gener@tsugaeduhoku.or.jp

○タイトル（保育計画）

地球はあそび場
世界の優れた玩具と国内の優れた固定遊具で子どもたちの成長と未来を！

○主な助成備品

アングーラ、ネフスピール、リグノ、キーナモザイク、ケルンモザイク、KAPULA カラーカプラ、WAKU-BLOCK45、（国産）三角大型遊具、（国産）鉄棒



・アングーラ、ネフスピール、リグノ



・園庭三角大型遊具



・園庭鉄棒

1. 実施した保育計画策定の目的

◎魔法のような素晴らしい積み木で遊ぶ子どもたち！！

◎子どもの成長に必要な、全ての感覚を養う固定遊具で遊ぶ子どもたち！！

2. 具体的な実施内容

幼児グループ（3・4・5才）は縦割り保育で環境設定はコーナー保育を行っています。3部屋にコーナーとして、7つの活動ステーションがあり、子どもたちは登園するなり遊び始めます。乳児グループ（0・1・2才）はプレイルームにて、登園した子から、子どもたちや大人と関わりながら遊びを楽しみ始めます。また、活動ステーションは、行事・活動の内容により大人がしかけるコーナーとしても時に出現することもあります。

積み木は一人遊びの最高のおもちゃであり、簡単な積み木から思うままにお城、タワー、恐竜でも出来てしまうまるで魔法のような素晴らしい積み木。積み木の中でも優れたネフ社の積み木・リグノ・アングーラ・ネフスピール・キーナモザイク・カプラ（白木・カラー）和久ブロック

両手で重力にさからわずにバランスを取りながら、時間をかけて積むというのが積み木遊びの真髄であり、是非都賀保育園の子どもたちにと選びました。



積み木遊び…家庭では高価な積み木はなかなか買えません。しかし今回都賀保育園にこのような機会を与えられ、是非子どもたちの遊びの充実、感性豊かな子どもの育成に素晴らしい積み木を、

- ・色彩の豊かなこと
- ・どの積み木も組み合わせができる着尺
- ・シンプルかつ精巧な作りを長年にわたり使用できる、という3点を基準に購入させていただきました。

和久ブロック…「それは子どもの願いをかたちにしてくれる積み木です。1才半になるとどの子も1個の直方体をバスやビルやベッドにみたてて遊びはじめます。他の積み木があると必ずこれを寄せて汽車や家をつくり出します。誰に教えられたわけでもなく、これは人間の2つの基本的な思考回路に一致した活動です。1つの情報をいろいろな場面に応用すること。いろいろな情報をまとめてひとつの答えを出すあり方、子どもが自ら育つ力をもっていることを示すもの、この知的欲求に応えるための環境を整えれば、子どもは嬉々として遊べるよう創造的な人間として育っていきます。子どもの真の姿を知るためにも必要不可欠な積み木です。」(和久洋三氏のことば)

和久ブロックであそぶ



ネフ社の積み木であそぶ



姿を消しつつある遊具

シーソー、鉄棒、ジャングルジムなど、小さいころ遊んだなじみの遊具が、公園では見ることができなくなってきました。新しいアスレチック型での遊具も時代とともに様変わりして子どもたちが遊んでいます。しかし日常的な場面で、行動や反応が不安定になり、転んだ時手が出ない、転んで顔に怪我をするなど、危険を伴わない平易な状況であっても怪我をします。今、子どもたちは様々な事情から屋外で過ごすことが非常に少なくなっています。このような現状ですが、先人たちが子どもたちの成長に必要と設置した公園の固定遊具が姿を消しつつある中、身体遊びの醍醐味とは、自分の限界を知り、それを越えていくことです。自分の能力を客観的に評価することで学ぶことができるチャンスです。自分自身で安全を確保する「危険回避能力」を身に付けたり、平衡感覚は、全ての運動・活動の基礎となるもので、子どもたちにいろいろな遊びを通して状況をうまく乗り越えた、やりきることが出来たという成功体験は、次の新たなチャレンジできる自信とやる気を生み、それは大きな自己肯定感、つまり「生きる力」へと繋がっていくと思います。子どもの成長に必要な全ての感覚を養う遊具のひとつとして、園庭に固定する中型遊具、鉄棒を選びました。



3. その成果と評価

素敵なプレゼントに子どもたちは大喜び。すぐにさわり、形を確かめ夫々の手に取ると、もう子どもの世界は広がっていきます。0才児～5才児まで積み木の遊びを楽しんでいます。あそびというのは放っておけば子どもは子どもの感性であそびだしますが、積み木のもつおもしろさや発展性、創造性を育むには、まず積み木のおもしろさを大人が共に楽しむことが重要です。大人も一緒になって遊んでいると、子どもは何作ってるのかなーと興味をもち、それをヒントに自分で創り出したり、時には一緒にやろうーと共に大規模のものをつくったり、常に子どもたちの創造・想像力は止まることはありません。月齢の低い子はみていて、積み木を渡す役をしたり、こわさないよう気かけたり、そのうち仲間入り、そして“僕だって出来るよー”と自信に満ちた表情に変化していく様子がおもしろいです。子どもたちの発想のおもしろさは、大人が決して真似できない独特の感性がくり広げられています。くずれてはまた積み上げていく積み木の醍醐味を楽しんでいます。

4. 今後の課題と展望

積み木あそびの醍醐味を更に楽しみ広めていくために買い足していかなければなりません。数人であそんでいるとあっという間に使い切ってしまう、そこに次の想像力をプラスしていくので、限りなくあそびの世界が広がっていきます。今回購入させていただいた積み木類は優れたもので高額ではありますが、今後も買い足して増やしていきたいと思っています。保護者の皆様も関心を強く持たれています。積み木遊び、園庭での固定遊具など、子どもたちが楽しんであそんでいる姿はとても嬉しく思います。

園の目標でもある、たっぷり遊んで、しっかり食べて、ぐっすり眠る。そしてたくさんの愛情の中で育つ都賀の子どもたちの成長をこれからも見守っていきたいと思います。新設園に、素敵なおもちゃをプレゼントしていただきました第一生命財団法人様には心よりお礼申し上げますと共に、これからも多くの保育園で子どもたちがより良い保育環境の中で過ごせますよう、益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

以上

保育計画成果報告書

法人名	長谷川ナーシングパートナー(株)
施設名	わらべうた等々力保育園
報告者（役職）	漆中 由美子（園長）
住所・連絡先	東京都豊島区東池袋3-1-1 サンシャイン 60 57 階 ☎ 03-5957-7808 E-mail s-harazono@warabeuta.co.jp

○タイトル（保育計画）

都市型保育園の園庭に冒険の丘を創る

○主な助成備品

園庭整備

1. 実施した保育計画作成の目的

等々力駅から5分、目の前に目黒通りが走る都市型の保育園です。子どもたちに砂場遊びが必要と考え、小さな園庭を作りました。近隣に空き地はなかったため、駐車場を5台分賃貸し、アスファルトをはつり、土を入れ、砂場と築山だけを作ったシンプルな園庭です。

このようなシンプルな園庭ですが、子どもたちはどろんこ遊びを楽しみにし、保護者の方にも子どもの遊びを理解いただき、毎日どろんこのお洋服の洗濯をしていただいています。

今年度の保育をスタートするにあたって、保育内容の振り返りと今年度の計画を行いました。折角園庭があるのだから、もっと活用したいとの提案が保育者からあがり、園庭の計画について話し合いました。子どもたちのからだの育ちの課題としてあがったことが、家庭で歩く経験が少ないこと（通園も車や自転車の方がほとんどです）、その分毎日散歩に行き歩いているけれど（年齢×1^{キロ}歩くことを計画しています。子どもたちはあそこに行こうと歩くことを楽しんでいます）、歩く場所は平地が多く、子どもたちに高低差の経験が少ないのではという意見でした。高低差の経験を園庭でできるように環境を設定しようと意見がまとまりました。

2. 具体的な実施内容とその成果と評価

園庭整備：スライダーの設置 築山 掲示板

3. その成果と評価

「冒険の丘を作る」をテーマに、大型のスライダーを設置した。

何もない園庭に大型スライダーが設置されたことにより、子どもたちには大きな変化がみられた。



●スライダー滑り

0歳児

- ・初めは滑ることを怖がっていた子が、他児の滑り方を見るなど影響を受けて、滑ることができるようになった。

1、2歳児

- ・滑る方からよじ登る。全身を使った動きが必要になる。特に腕や足の力を使う。また靴を脱ぎ、自ら裸足になって遊ぶ姿が多く見られた。
- ・公園などのスライダーでは、下から登ったりしない。ここでは（園庭）登ってよいと、理解できるようになった。
- ・スライダーの上からボール転がして遊ぶ。他のスライダー（公園などの）では絶対できない遊びにより、高低差の不思議を体感した。
- ・友達と一緒に、手をつないですわり、スライダーを滑る。友達と関わりながらの遊びが広がっている。

●高さのある台であそぶ

0歳児

- ・柵の隙間から下に向かって「オーイ」と声を出して手を振ったり、下にいる子も見上げて楽しんでいる（高低を楽しむ）（3期後半から）。

1、2歳児

- ・台の上からシャボン玉を飛ばすと、それを下にいる子が追いかけて、上を意識しながらうまくぶつからないように走ったりと、注意力も身に付いている様子。高低があると、平面のながれとは違う活動ができる。

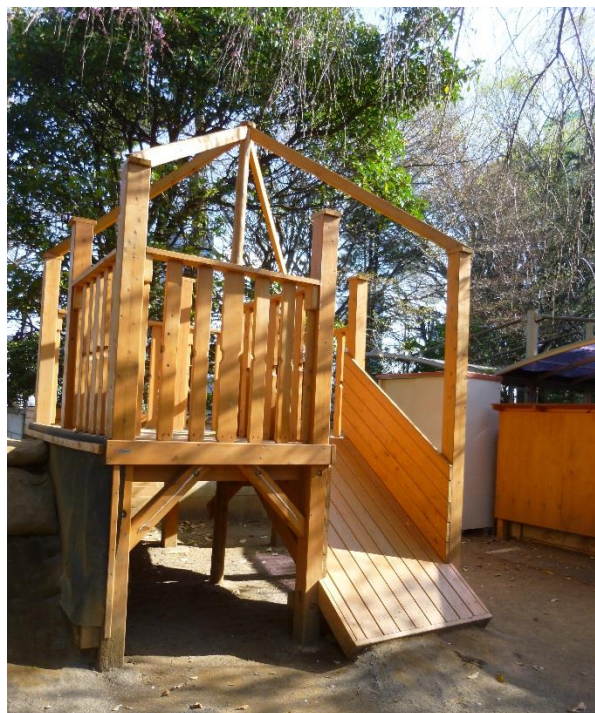
●台の下であそぶ

0歳児

- ・台の下のスペースで、身を隠し「いないいないばあ」をして楽しむ遊びをおぼえ、友達や保育者と楽しんでいる。

1、2歳児

- ・屋根のある空間なので、安心感があり、かくれんぼをしたり、土いじりを楽しんでいる。せまい空間ならではの、子ども達同士の関わりが見られている。
- ・雨やどりする。小雨がぱらついてもみんなで台の下に入り、雨宿りを楽しんだ。
- ・縄跳びを使った電車ごっこでのトンネルくぐりで、屋根のある空間の遊びを広げた。



●築山のぼり・下り

0歳児

- ・築山の高さが高くなったことで、登ることが少し難しくなり、登り着いた時には保育者に褒められ、嬉しそうに自分で拍手したりと、達成感につながっている。

1、2歳児

- ・足元が不安定な坂や、滑りやすいところで足を踏ん張って身体を支える力や、手をついて登るなど全身を使った動きが見られた。体重を感じながら動く活動は、平坦な場所ではあまりできない。ふつう手をつくことは嫌がる子もいるが、自然と手をついている。
- ・築山を登っていて、落ちそうになった時、他の子が助けようとしたり、手をつないで登ったりと、助け合う姿が見られるようになった。

●その他

1歳児

- ・スライダーと築山の周りをぐるぐる走り回り、空間を楽しんでいる。バランス感覚もついていると思う。
- ・遊具ができたことで、園庭への親しみがより増した。帰る時「園庭さんバイバイ」と手を振る姿も見られる。

4. 今後の課題と展望

大型のスライダーは、地域のランドマークとなり、今まで保育園の園庭と認識していなかった地域の方々も「ここが保育園の庭」との認識が広がってきた。地域の保育ママさん（園庭のない施設）も定期的に訪れ「地域の公園では滑り台の体験は難しいが、これは小さな子も遊べる安全なサイズなのでとても楽しみにしている」と評価をいただいている。

一方、保育園の2歳児は「招待している」という気持ちも芽生え、一緒に遊びに誘う等の交流が広がっている。

また、保育園に見学に来られる方にも案内をしたり、地域の児童館や子育て広場にも「園庭解放」のちらしを置くことで、電話もいただけるようになった。今後もこのスライダーを利用し、地域との関わりを広げていきたい。

以上

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 名古屋新生福祉会
施設名	新生第2 保育園 さくらナーサリー
報告者（役職）	横地 由紀（園長）
住所・連絡先	〒462-0011 愛知県名古屋市北区五反田町 297
	☎ 052-903-8080
	E-mail Shinseidai2@bz04.plala.or.jp

○タイトル（保育計画）

自然は遊びの宝庫

○主な助成備品

パパイヤハウス ベンチテーブル お昼寝ベッド 6 輪ひなん車

1. 実施した保育計画策定の目的

新生第2 保育園では、隣接する畑の真ん中に、センターハウスのようなパパイヤハウス、テーブルやベンチを置き、子ども達が花や農作物、昆虫、鳥などの自然に触れて遊び、その中から楽しく学び、収穫物に感謝し、生きること、また生かされていることに感謝してほしいと願い保育をしています。

そして、子ども達、保護者、近所のグループホームの方々や近隣の方々との笑い声の絶えない交流の場とし、地域貢献を目指します。

2. 具体的な実施内容

自然に触れて遊べるように、畑の自然環境を工夫し、子ども達と一緒に、野菜や花の栽培を行いました。

パパイヤハウスやベンチやテーブルは、おうちごっこやお店屋さんごっこ、お医者さんごっこ、また休憩の場所となることもあり、畑でおやつタイムを楽しんだこともありました。ときには、忍者ごっこと称して、パパイヤハウスやベンチやテーブルがアスレチックになる時もあり、子ども達の畑での遊びはどんどん広がっていきました。秘密基地づくり、穴作り、築山づくり、生えている草木でお面づくりやおままごとのお皿やごはんにして遊びました。



野菜栽培では、種をまく事、水やり、収穫だけではなく、土づくりや畝作り、草取りや肥料やり、野菜によっては支柱たても子ども達と行いました。栽培するにあたってなるべく子ども達がかかわれるように工夫しました。玉葱、キュウリ、ニンジン、さつまいも、いちごなどの野菜やくだもの、パンジー、チューリップ、ビオラも栽培しました。

何種類か野菜を栽培した中で、玉葱は親子で収穫することにしました。保護者には予め、伝えておいたので、お迎えの時は親子で畑に入り、「伸びてきたね!」「玉葱ってこんなふうに生えるんだ」と親子で成長を楽しみにしている様子でした。細い葉はヒョロヒョロ伸びてくるが子ども達には「玉葱」という意識は無いようで、「土の中に玉葱ができるんだよ」と話しても、保育士が期待したほどの興味は示しませんでした。ところが、土の表面に玉葱の頭が見え始めると、途端に興味がわいてきたようで「たまねぎだー!」「あっ!これ赤いよ」と観察するようになりました。

収穫の時期になり、お迎えの時間に親子で収穫して、持ち帰ることにしました。「どれにする?」「赤がいい!」「大きいタマネギがいい!」「なかなか抜けないね」と親子の会話が弾んでいました。抜けると「何にして食べる?」「お味噌汁に入れる」と収穫の喜びを親子で味わっていました。

その後、保護者に感想を聞くと、甘くておいしかったです。収穫楽しかったです。オニオンスライスにし、最初は生で食べることをためらっていたが、「Mがお水をあげて育てた玉葱おいしいよ!」と言うと「おいしいね」と食べていました。

保育園では、収穫した玉葱は、子ども達と一緒に皮をむき、ホイル焼きにして味わいました。自分たちで育てた玉葱は格別だったようで、普段、苦手でなかなか口にしない子もおかわりをしていました。



10月、「さくら ふれあいフェスタ」として運動会を初めて開催しました。日頃から「いつでも、保育園に遊びに来て下さい」と地域の高齢者の方々や若い子育て親子の方々に、声を掛けていますが、畑の中まで入ってきて一緒に遊ぶことは、あまりありませんでした。

しかし、パパイヤハウスを真ん中に地域との交流を目指しており、職員でチラシを手作りして、近所にポスティングをしました。すると、近所の方が、「私も、知っている親子に声かけてあげるわ」と言っているそばから、通りかかった知り合いの親子に声を掛けて下さっていました。この時、地域のつながりの大切さを強く感じました。

当日は、グループホームのお年寄りの方、若い親子の方々数組の参加があり、園児と一緒に各種目を楽しみ、笑顔が絶えない1日となった。



3. その成果と評価

遊具が無い畑で、自然の素材を活かした遊びを通して、子ども達は自分で発見して、工夫して遊びがどんどん広がっていきました。その様子を見て、保育者もどうしてもっと子ども達がワクワクするあそびができるだろうと、今度はこうしてみよう、この素材を増やそうと、畑の活用方法を話し合いました。子ども達の笑顔と同時に職員のチームワークがさらに強くなりました。こうあるべきという従来の枠を外し、子ども一人ひとりを理解して保育をしました。



また、親子で野菜の収穫をすることを働きかけたことによって、栽培への興味や関心を持ってもらうだけでなく、家庭で調理して味わう事で、「食」を介して親子のコミュニケーションが豊かになりました。そして、保育者と保護者の関係も今まで以上に深まりました。

パパイアハウスを拠点として、子ども達、保護者、職員、地域の方々へ働きかけはそれぞれ異なりますが、確実に広がりを実感しています。しかし、まだまだ地域貢献としては、薄いと感じており、次の段階として保育園は何ができるのだろうかと模索しています。



4. 今後の課題と展望

新生第2保育園は0～3歳児までの準乳専保育園です。3歳児になると他の園へ変わらなければなりません。私たちは、この保育園を開設した時から就学までの標準型保育園にしたいと考えています。私たちだけではなく、保育園を利用している保護者の方からも要望は強くあります。保育園の利用者の中には、外国籍の方も2割程在籍しています。就学までの保育を行う事で、子ども達が途中で園が変わる事無く、慣れ親しんだ環境や友達、保育者と生活できる事は、とても大切な事と考えます。地域を巻き込み、地域に根付いた保育園を目指す私たちにとって、これからの大きな課題です。

以上

保育計画成果報告書

法人名	学校法人近江兄弟社学園
施設名	認定こども園 近江兄弟社ひかり園
報告者（役職）	安川 千穂（ 園長 ）
住所・連絡先	滋賀県近江八幡市多賀町 557
	☎ 0748-32-0301 E-mail yasukawa0043@vories.ac.jp

○タイトル（保育計画）

ツリーハウスを軸にした異年齢交流（ごっこ遊びを中心に）

○主な助成備品

ツリーハウス

1. 実施した保育計画策定の目的

一 こども園園庭に設置している遊具は既成の物が中心であり、設置の目的としては、主に「子どもたちの体づくり」「チャレンジ精神を育む」ことであった。この度設置したツリーハウスは、屋外での「ごっこ遊び」の拠点となるようねらいを持ち設置した。これまでも、園庭の至る所（砂場、木かげ、ままごとハウス等）で、一人、また友だちと一緒に様々な遊びを展開させる子ども達の姿があった。園舎ほどの高さがある大きな木に添って建っているツリーハウスにて、子どもが持つ豊かな感性がどのように活かされていくのかを見守りつつ、子ども達の意欲が増すような（時には意図的に）環境作りの必要を感じる。

二 認定こども園開設2年目を迎え、幅広い年齢の子ども達が生活する中での配慮や、行事の持ち方について検討し実践することが増えつつある。しかし、子ども達が自発的（主体的）に関わり合うきっかけ（仕組み）は薄く、課題のひとつでもあった。乳児棟、幼児棟という2棟の園舎に分かれ園生活を送ることも希薄な関わりの原因であるように感じる。ツリーハウスは2棟を繋ぐ裏庭に設置しているため、集しやすい雰囲気がある。そこを拠点に自然な流れの中で、異年齢で交わり愛情関係や受容性、向社会性を育みたいと願った。

2. 具体的な実施内容

ツリーハウスオープン：4月

取り組み：クラスごとにツリーハウスに登り、気づいたこと、感じたことを表現し合う。

◎登ってどんな気持ちがあったかな？

◎どんなことがしたい？

◎危ない！と感じたことはなかった？



・ 昨年の1月、ツリーハウスが建つ様子を眺めながら「いつ出来るの？」と完成を待ち遠しく思う子ども達であった。暖かな春になり、眺めて、触って、登って、見下ろして、「先生、今日も木のお家に行っていい？」憧れのツリーハウスは子ども達にとって「身近な場所」となった。園舎2階の高さと同じ位置となるツリーハウスの上段に登った子ども達はそれまで見る事がなかった「新しい風景」に目を輝かせていた。「あ〜気持ちいい」「(園庭の築山を指差して)あっちの山が小さく見えるなあ」めいめい感じたことを話す姿がみられた。



- ・ 「何して遊ぼうか？」という投げかけに「そりゃあ、レストランやん」「ホテルもいいなあ」「僕の家にするわ〜」イメージの前提には共通して「ごっこ遊び」があった。
- ・ 「楽しいけどちょっと怖いと思うことはあった？」「ない、ない」「でも、落ちたら痛そう、ジャンプとかはしたらあかんで」「階段ちょっと怖かった」子ども達なりに危険を予知し、どうすれば安全に遊べるかを話し合うことができた。
- ・ 後日、ツリーハウスの階段で、年長組の子ども達が小さい組さんに声をかける姿がみられた。「あんな、忍者みたいに登っていくねんで、そっとゆっくりな」「降りるときは、おしり外に向けるんやで」「降りる人が先〜、(登るの)まだ待ってて〜!!」
- ・ 子ども達のお気に入りには頂上のスペース。天井のないツリーハウスの屋根は緑色の葉っぱ。ハンモックを吊り、新緑の間からみえる青空を「空のおふとん!!」と呼んで喜ぶ子どもの姿がみられた。

摘み草レストランごっこ：5月〜

取り組み：ツリーハウス周辺に机や椅子、ごっこ遊びの道具を整え、子どもたちが主体的に選びツリーハウスに持ち込めるようにする。外遊びの時間を長く設定し、十分に遊びこめるように保育計画をたてた。また、異年齢での出会いが広がるように外遊びの時間が重なり合うよう意識をした。

◎○○ごっこを楽しもう。

◎何しているのかな？私もしたいな。

◎明日も続きをしたいね。

- ・ ツリーハウスの中に皿やコップなど、ままごと道具を持ち込み、年長組さんをご馳走作りを始めた。ハウスの外でその姿をじっと見ていた年中組さんにお姉さんたちが声をかける。「まだ準備中、また後で来てな」「うん」お天気のいい日、毎日オープンする摘み草レストランであった。



- ・ 年長組さんの遊びを模倣するように、年中組さんだけでごっこ遊びをする日もあった。年長組の子ども達のように、細やかに役割分担をする姿はなかったが、具体的なイメージを、「年長児の観察」により共通してもつことが出来ていたように感じる。

- ・2歳児クラス子ども達がお客さんになったり、時には異年齢児でごっこ遊びを楽しむ姿もみられるようになった。

宝島へ出発（お泊まり会）：7月

取り組み：年長組お泊まり会のテーマがツリーハウスにつながる。

◎ツリーハウスが船に変身！！

- ・梅雨が明け、夏の保育が始まった。年長組の子ども達は毎年この時期、園にてお泊まり保育を経験する。今年のお泊まり保育のテーマは「冒険」。帆を張った船に乗り、夏の風に導かれ宝島へ冒険にでかけ、素敵な宝物を見つけに出かけるというものであった。
- ・取り組みの初めに、「船はどうする？みんなで作る？」という保育者の投げかけに子ども達が口にしたひとは「もうあるやん、ほらあそこに！！」指差した先にはツリーハウスが。2階の保育室から色とりどりの帆を張り、園舎とツリーハウスがひとつとなって子ども達の冒険心を宝島へと運んでくれた取り組みであった。



その他の取り組み

○絵本「三匹のこぶた」をツリーハウスでイメージし、表現遊びを楽しむ、等。

3. その成果と評価

屋外における子ども達の「ごっこ遊び」は、開放的で次々と豊かなイメージが湧き上がってくる姿がみられた。ツリーハウスという空間は、新鮮で「特別な居場所」となり、そこで遊びこむことが、子ども達の心身の安定や成長につながることを傍で見て感じていた。異年齢の交流の拠点にという目的は、自然なかたちで実りつつある一年となった。年上の子どもの中には思いやりや優しさが芽生え、年下の子ども達は「楽しそうだな、やってみたいな」という憧れが芽生えたように感じる。

4. 今後の課題と展望

子ども達の遊びをどのように大人が捉えるのかにより、その遊びの広がりが変わるように感じる。幼児期の学びは「遊び」という所以は、その中のねらいや目的が教育的意義に富み、主体性を持ち得ようとする自然発生的な子ども達の遊びが、豊かに広がるような環境作りを保育者が心がけると同時に、子ども達の遊びを十分に観察し、大人もそのイメージを共有する必要がある。子ども同士のやりとりの中で、子ども達の育ちを感じ、様々な年齢幅で遊べるような道具やスペースの見直しを定期的の実施したい。子ども達の活動（姿）を職員間で共通認識し、出会いを繋げ、育ちを支え合うこども園の運営に努めたい。

以上

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 つくし会
施設名	あおぞら保育園
報告者（役職）	河原 学（園長）
住所・連絡先	滋賀県大津市大江一丁目 36-1
	☎ 077-511-9516
	E-mail aozoraho@iaa.itkeeper.ne.jp

○タイトル（保育計画）

ツリーハウスにのぼろう！ ～丈夫な身体づくりをめざして～

○主な助成備品

ツリーハウス

1. 実施した保育計画策定の目的

平成 24 年 4 月保育園開設時、園舎や設備備品に殆どの資金を支出したため、335 m²の園庭には築山と砂場及び移動式の鉄棒 3 個のみの整備しかできていませんでした。そこで、木々や花々を植樹した中に、子どもたちの冒険心を駆り立てる遊具を一体的に配置し、自然に近い園庭に改造する園庭構想計画を作成し、推進することにしました。

この園庭構想計画に基づき、園児が楽しく遊びを広げられ、身体づくりに結び付くことを狙いとした園庭づくりを 5 カ年計画で進めます。その第 1 期として、平成 25 年度ツリーハウスを設置整備しました。

2. 具体的な実施内容

ツリーハウスの設置整備

4・5 歳児用の滑り台を備え、網目のロープネットなどで登れるやぐらを下部に設け、5 歳児が縄梯子やこぶ付きロープで登れる木と一体となった「ツリーハウス」を園庭に整備し、以下の取組を行ないました。（写真参照）

- (1) 4・5 歳児用の滑り台を備え、網目のロープネットを使い手足でツリーハウスの 2 階に登る取組をしました。
- (2) 主に 5 歳児（年長組）が、身体づくりの集大成として、縄梯子やこぶ付きロープを使い足腰腕など身体全体でツリーハウスの 3 階に登る取組をしました。
- (3) 年間を通して身体づくりに取り組み、子ども同士で励ましあいながら全員がツリーハウスに登れるように、集団づくりに取り組みました。

3. その成果と評価

1. しっかりした足腰腕の身体づくりに役立つ遊具としてのツリーハウス

- (1) 4・5歳児が網目のロープネットを使って2階まで登ることで、身体を持ち上げるための丈夫な手足が鍛えられました。
- (2) 5歳児が縄梯子やこぶ付きロープを使って、2階から3階に登ることで、足腰腕など身体全体が鍛えられました。
- (3) 4・5歳児の子ども同士で励ましあいながら、全員がツリーハウスに登れるようになり、集団づくりが進みました。

2. 子どもや大人の精神的支柱としてのツリーハウスの存在

- (1) ツリーハウスに登れるようになることが、年長の誇りや自信につながり、チャレンジしている姿が在園児や保護者・職員に大きな感動となっています。
- (2) ツリーハウスに登れることが、年長組として在園児の憧れの存在になっています。
- (3) ツリーハウスが、保育園のシンボルとして、地域の方や保護者、職員に親しまれ、お互いの繋がりや交流を深める存在感となっています。

4. 今後の課題と展望

ツリーハウスを含む園庭構想計画（完成予想図）に沿って、平成29年度までに少しずつ園庭整備を計画実施していきます。

(1) 第2期 平成26年度実績

乳児用の園庭を早急に整備することを優先し、当初園庭構想計画（完成予想図）になかった乳児園庭コーナー（0・1歳児用）を追加整備しました。築山・乳児用滑り台・乳児用砂場を植栽で囲み、出入り口の扉を2カ所設置しました。

(2) 第3期 平成27年度整備計画

- ・水を汲み上げる手動ポンプや砂場玩具を収納できる棚を備えた「収納小屋」
- ・築山との間に一体になった「どろんこ砂場」

(3) 第4期 平成28年度整備計画

- ・築山に登り2～3歳児が遊べる「滑り台」
- ・安全のため使用しないときはベンチとして使い、園庭クッキングの時に蓋を取り、築山を背に安全柵を設けた煮炊き用の「かまど」

(4) 第5期 平成29年度整備計画

- ・4・5歳児がロープ橋を渡りツリーハウスの下部やぐらに繋がるウォールクライミングやはん登棒でも登れる「やぐら」
- ・築山や散歩道に、四季の変化のわかる実の成る木や落葉樹を多数植え、小森の自然の中に上記の遊具等を一体的に配置。

以上、園庭整備を完成する予定です。

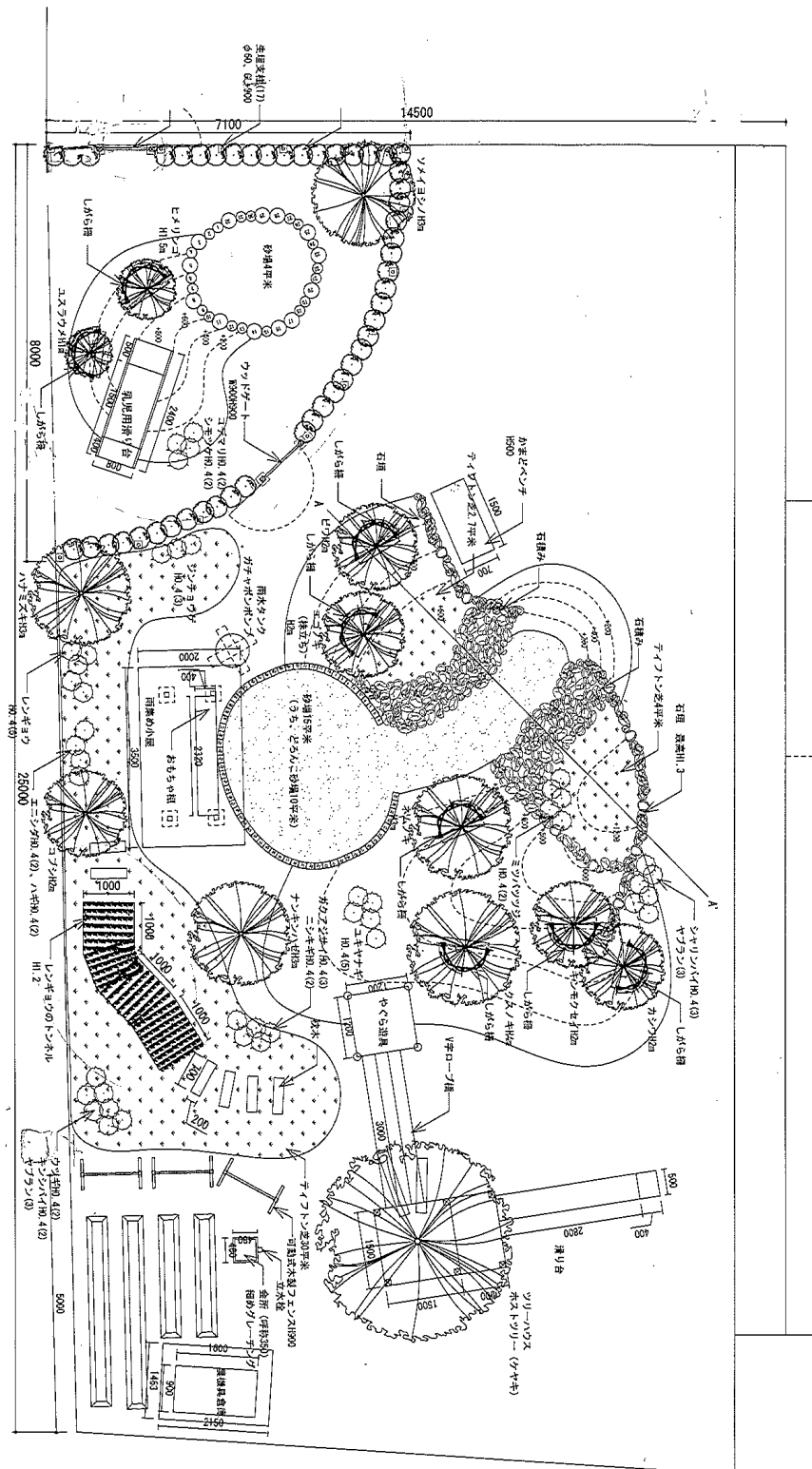
<写真> ツリーハウス



あおぞら保育園のシンボル。
ツリーハウスの前で、とんぴ
ぐみ（5歳児）の記念写真。



＜完成予想図＞



保育計画成果報告書

法人名	学校法人
施設名	認定こども園 光の園たんぽぽ保育園
報告者（役職）	高石 知枝子（園長）
住所・連絡先	大阪市西淀川区大和田 5－1 2－2 1
	☎ 06-6195-7466
	E-mail tanpopo@hikarinosono.ac.jp

○タイトル（保育計画）

＜0歳児＞ おもちゃ大好き！お部屋でいっぱい遊ぶよ。

○主な助成備品

ボール、パタパタパフ、ソフト積み木等

1. 実施した保育計画策定の目的

0歳児は、室内あそびが中心だが、体力がついてくると走り回ったりと落ち着かないことが課題だった。なので、室内でも体を動かして遊べる粗大遊びを取り入れたいと思い、お願いしました。

又、指先が少しずつ器用になる時期なので、指先を使うおもちゃをお願いしました。

2. 具体的な実施内容

以前から園にあった囲いの中にボールを入れ、保育室にボールプールを設置した（写真1）。

下にマットをひき、転倒しても怪我のないように配慮し、子どもたちが中に入ったり出たりと、自由に楽しめるようにする。

パタパタパフ・・・おもちゃ棚に置き、遊びたい時に自分で取り出し遊べるようにする。まずは、認識しやすい丸の形のみにし、様子を見ながら四角など違う形を取り入れていく。



（写真1）

3. その成果と評価

ボールプールでは、ボールがあることで興味を示し、積極的に囲いを乗り越えて入ろうとする為、ダイナミックに動く様子が見られるようになった。その為、腕の力や足を上げるなど、新しい体の使い方を知る経験が出来た。また、ボールの上に座るなど自分でバランスを取ろうとすることで、体幹が鍛えられる遊びを取り入れることが出来た。

しっかりと体を動かして遊ぶことで落ち着き、静と動の遊びがしっかりと分けられ、集中して遊ぶ様子が見られるようになった。

パタパタパフでは、掴んだものを穴に入れるという行動の繰り返しで目と手の協応が育ち、また、いろんな形があることで形の認識が出来、集中して遊ぶようになった。

4. 今後の課題と展望

ボールプールでは、遊びがマンネリ化してしまい、だんだんとすぐに飽きるようになってきたので、ボールプールのみではなく、ボールを使った遊びを取り入れ、展開していく必要があると感じている。

月齢や子どもの様子をしっかりと把握し、遊び方やおもちゃなど工夫していきたい。

○タイトル（保育計画）

＜1歳児＞ 好きな遊びでいっぱい遊ぼう！！

○主な助成備品

アスレチック・乗用玩具／足けり、クーゲルバーン、プラステン、レナモザイク、ロンディ、ハンマートイ、型はめ(板・箱) など

1. 保育室実施した保育計画策定の目的

- ・保育室の隣にあるテラスに出て、いつでも粗大あそびができる。
→ 運動能力の発達を促す。
- ・たくさんある室内のおもちゃの中から自分のしたいあそびを選んであそぶ
→ 主体性を育む。

2. 具体的な実施内容

粗大あそび

- ・アスレチックの斜面を使って、ハイハイで上ったり、滑り落ちたりしてあそんだり、階段の上り下りをする。
- ・ピンキーは押し車のようにして歩行の練習をしたり、またがって足を動かしてバランス感覚を養い、運動機能の発達を促す。

微細あそび

- ・クーゲルバーンは、指先で小さい球をつまみ楽しみながら注目・追視の機能の発達を促す。

- ・プラスチック、レナモザイク、ロンディは、様々な形をつまみ、箱のなかに入れたり、リングを棒に刺したり、並べたりしてあそぶことによって微細機能の発達を促す。それに加え、色の識別・形の認識ができるようになる。
- ・ハンマートイでは、手首の運動機能の発達を促し、楽しんで遊びながら集中力を養う。
- ・型はめパズルは、形の特徴を認識し、型にはめようと指先を動かしたり、型にはまった達成感を感じることで次への遊びの意欲につなげる。



3. その成果と評価

粗大あそびでは、好きな時に全身を使って遊ぶことができた。

子ども達は、テラスに出て遊ぶことをとても喜んでいた。

ルールを作ることによってルールを理解して守るようになってきた。

微細あそびでは、たくさんあるおもちゃの中から好きな遊びを満足するまで遊ぶことができた。

微細機能の発達により指先に力が入るようになったことで、スプーンを持ったり、ズボンや紙パンツを自分でおろすことができるようになった。

満足するまであそぶことで、情緒が安定するようになった。

「できたね!」「上手だね!」とたくさんほめることで、意欲につながることもできた。

4. 今後の課題と展望

出来ることが増えてきたので、自分のしたいことを自分でできるように自立へとつなげていく。

個々のあそびから、友だちと関わってあそぶことができるようにしていく。

○タイトル（保育計画）

＜2歳児＞ 雨の日だっていっぱい遊ぶよ♡

○主な助成備品

巧技台、はしご、ピンキー、マット、色合わせセット、動物セット

1. 実施した保育計画策定の目的

戸外あそびのできる日はよいものの、天候の悪い日など外に出られない日のあそびの充実が、課題となっていました。そこで今回、室内で十分に体を動かして遊べる物、机上で集中してあそべる物、イメージをふくらませ遊ぶことの出来る物を助成備品としてお願いしました。

2. 具体的な実施内容

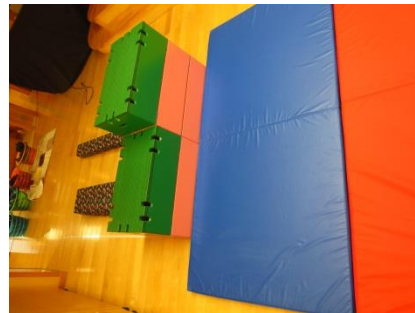
室内での粗大運動の充実をはかるため、巧技台を子どもが自由に使用できる位置に設置しました（写真2）。ほかにも写真3のようにジャンプが楽しめる設定にしたり、組合せを変化させて使用しました。

ピンキー（車）は室内でサーキットのようにしてルールをつくり、免許書をつくるなど1つのごっこ遊びのようにして週に1～2回ほど取り入れました。

動物セットは構造コーナー（積み木、電車とともに）に、色合わせセットは机の横の棚に置き、自由に遊べるようにしました。



（写真2）



（写真3）

3. その成果と評価

粗大運動の面では外に出られない日など室内をうろうろする姿も見られましたが、巧技台やはしごを設置することで体を動かし、うろうろする子はいなくなりました。また、十分に体を動かすことで室内あそびに集中してあそぶことができています。

ピンキーのサーキットでは、簡単なルールをつくっておきました。すると子ども同士で声をかけあったり確かめあったりする姿もみられ、ルールのあるあそびへと変化させることができました。

色合わせセットでは色をあわせるだけでなくバランスを保ちながら高く積み上げたり、ヒモ通しに使ったりしています。このことで楽しみながら目と手の協応を育てていきます。

動物セットは動物園にしたり、電車や積み木と組み合わせ1つのストーリーを数人で共

有して遊んでいます。

これらの玩具を置いた結果、‘静’と‘動’の遊びをわけることができ‘静’の遊びはより集中し、‘動’の遊びは十分に体を動かすことができました。

4. 今後の課題と展開

‘静’と‘動’のあそびをわけられ、とても集中して遊ぶことができます。

ただ、設定方法や遊び方などパターン化してしまっている部分があり、遊ぼうとしない姿も見られるようになってきました。より、子どもの興味をひくような設定や工夫を心がけていきたいと思います。

以上